

第2学年 音楽科学習指導案

- 1 題材名 構成を工夫して、言葉によるリズムアンサンブルをつくろう
＜教材名＞ ・「サラダの音楽」の創作

- 2 題材について
＜学習指導要領との関わり＞

第2学年 A 表現（3）イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。 〔共通事項〕 ア リズム、構成、テクスチャ

（1）題材観

音楽科における創作活動では、生徒自身が感じ取る対象や思考・判断していく過程を明確にして、〔共通事項〕 とのかかわりの中で、学習内容を厳選し指導と評価の一体化を図ることが重要である。

本題材では、感じ取る対象を言葉のもつリズムとする。これを手掛かりにしながら反復、変化、対照などの構成を生かし、全体のまとまりを工夫したリズムアンサンブルを創作し、表現力を高めることを目指している。さらに、主体的に練習したり協力して工夫したりしながら、「考える→試す→考える→…」といった思考・判断する学習の充実を図っていく。

生徒たちが日頃何気なく使っている言葉からも、工夫次第で様々な音楽をつくることができる。身近な言葉を活用することで、身構えることなく創作活動に取り組むことができると考え、本題材では言葉にリズムを付けたものを音素材とした。音素材の特徴を生かし、一定の創作のルールの中で様々な音楽表現を工夫することにより、生徒たちは新たな音楽を生み出す楽しさや喜びを見出すであろう。

また、創作の活動ではイメージをもつことが大切である。本題材では、イメージするものを「サラダの盛り付け方や食べ方」と設定し、日常生活の中で身近に経験していることを自由に思い描きながら、音楽をつくっていく。そして、リズムの重ね方や全体の構成、音楽としての統一感について、イメージを根拠にして説明する場面を設定する。このような学習場面を通して、リズムアンサンブルのよさや面白さを感じ取らせるとともに、体験的に音楽の構造を学ばせ、理解を深めさせたい。

学習を進めるにあたっては、音や音楽を媒体とした生徒同士のかかわりが重要であると考え。学校教育における音楽学習活動では、自分とかわった音や音楽に対する思いや考え、自分にとっての音楽的価値を言葉や音によるコミュニケーションを通して他者に伝えたり、共有したりすることが重要である。音によるコミュニケーションとは、自分の思いや意図を音で他者に伝えること、他者の思いや意図を、音を通して感じ取ることである。それらを支えるものとして言語活動があるととらえている。コミュニケーションの視点からも、言語活動を支えとしながら思いや意図を、音楽を通して相互に伝え合う場面を積極的に設定したい。

（2）生徒の実態




2年4組は男子16名、女子18名、計34名である。

全般的に音楽活動に対して真面目に取り組むが、歌唱や合唱など、「声」を使って他者とのかかわりの中で自己を開放し表現する活動においては、やや控え目である。音楽科の授業を通して人と「かかわる」ための受容や表現の基礎的な力をつけていくには、学校という集団生活の場は適している。しかし、音や声を出すことに対して少しでも抵抗を持ってしまうと、音楽におけるコミュニケーションは成立しない。音楽本来の楽しさがあり、誰もが自己を開放し取り組める授業を通して、音楽表現を創り上げる過

程における自己、他者、共有する学習素材や事象とのかかわり方を学ぶことが課題であると考える。

本題材では、個々が「リズムのもと」をつくり、それを持ち寄って、3～4人のグループ構成で「声」によるリズムアンサンブルをつくる。グループ活動により、一人一人の役割に対する責任を自覚に裏打ちされた思いや意図をもって音楽表現をする場を設定する。具体的には、イメージを共有して友達と演奏を聴き合ったり、リズムの重ね方、構成、全体のまとまりについて聴き確かめたりしながらできるような場を設定し、支援していきたい。今回の学習経験が、このあと行われる学級や学年、全校の合唱づくりの原動力となることを期待する。

小学校での創作学習の経験については、大多数の生徒が、木琴や鉄琴、打楽器を用いた音楽づくり、手拍子の音楽づくり、リズムアンサンブルづくりの学習経験を挙げた。この経験値が発想の豊かさを生み出すものとする。また、リズムの技能について事前に調査したところ、以下の結果であった。

質問;次のリズムを打つことはできますか？	すらすら打てる	つかえながら打てる	打てない
(1) 	71.4% (20人)	21.4% (6人)	7.1% (3人)
(2) 	28.6% (8人)	53.6% (15人)	17.9% (5人)
(3) 	35.7% (10人)	28.6% (8人)	35.7% (10人)

4分や8分の音符と休符のみの組み合わせであれば、多くの生徒に読譜力が十分ついていると考えてよいだろう。シンクォーション、8分休符、16分音符が組み合わせると、読譜力は低下の傾向にある。このことが創作意欲の低下につながらないようにしたい。音符で表記すると難しくとらえてしまうリズムも、言葉のもつ自然なリズムを生かすことで、誰もが簡単にリズムをつくり、さらに反復や変化などの構成を工夫することで、さまざまな音の重なりを表現することができる楽しさ、面白さを味わわせたい。

(3) 指導観

本題材では、イメージするものを「サラダの盛り付け方や食べ方」と設定し、日常生活の中で身近に経験していることを自由に思い描きながら、音楽をつくっていく。リズム、テクスチャ、強弱、速度、反復、変化などの構成の要素に気付き、それらを手がかりとしながら、発想を得て意欲を高め、音楽の始まりから終わりまで見通して音楽をつくっていけるよう、指導を工夫していきたい。

まず第1次では、サラダに使われる野菜の言葉にリズムをつけたものを音素材とし、それに反復や変化など音楽の要素を加えることにより音楽が成り立つ面白さを味わわせていく。この段階では、すべての生徒がリズム、反復・変化の特徴を感じ取ることができると思う。

第2次第1時では、イメージとかかわらせながら、リズムの重ね方について工夫させていく。具体的には、「盛りつける音楽」では音の増やし方を、「食べる音楽」では減らし方を工夫する。この段階では、様々な重ね方を工夫するポイントとして提示し、音楽の構造を体験的に学ばせていく。この際、これらの要素を図式化したものを掲示し、音楽の構造を的確にとらえられるようにする。

第2次第2時では、さらに強弱や速度の変化を工夫のポイントとして加え、全体のまとまりをもたせていく。「だんだん」または「突然」といった分かりやすい言葉を用いて、曲想の変化に対する自分たちの思いや意図を適切に表現できるようにしたい。

最後に自分たちの作品を演奏し、評価し合う場面を設定する。自分たちの作品を演奏するにあたっては、全員が拍を合わせ、互いによく聴き合うことが大切である。これは、合唱や合奏などすべてのアン

サンプル活動において求められる力である。このことから、日頃から常時活動としてリズムアンサンブル演奏を行い、今回の学習を通して拍感を捉える力、互いの音を聴き合う力がさらに高まるようにしたい。

全体を通して、イメージを根拠にして説明する場面を設定し、言葉による説明も学習の支えとしていく。また、中間発表やまとめの発表を行い、感想を交換しあうなど互いの作品のよさを共有し、改善を加えながら学習を発展させていく。発表を聴く視点は、①どのような構成の工夫をしているか、②自分たちにはない工夫は何か、とする。視点を明確にすることで創作学習における学びを明らかにするとともに、教師側の評価にもつながるものとする。

3 題材の目標

サラダの盛りつけ方や食べ方をイメージしながら、言葉のもつリズムを生かし、反復、変化などの構成や全体のまとまりを工夫しながらリズムアンサンブルを創作する。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 言葉のもつリズムの特徴、反復、変化などの構成や全体のまとまりに関心を持ち、それらを生かして音楽表現を工夫しながらリズムアンサンブルをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	① 言葉のもつリズムを知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽で表現したいイメージを持ち、音素材の特徴を生かし、反復、変化などの構成や全体のまとまりを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	① 言葉のもつリズム、反復、変化などの構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要なリズムの組み合わせ方を身に付けて、音楽をつくっている。

5 研究の視点について

【視点1】9年間を見通した学び方の共有

一定の創作のルールの中で様々な音楽表現を工夫することは、音楽づくり・創作に共通した学習活動である。今回の授業を通して、①学びの連続、②交流活動の2つの視点から、9年間の学び方の共有について考えたい。

① 学びの連続

本題材での〔共通事項〕の一つ、「リズム」の音楽活動を通して身に付けさせたい力は、「拍感を捉える力」「互いの音を聴き合う力」であると捉える。このことは、小学校第1学年のスタート時に、音楽学習において重要な要素として位置付けられている。これらの力が十分に身に付いているかどうかを見極めながら、個に応じた支援することが大切であるとする。

リズムを使った音楽づくり・創作は、義務教育9年間で一貫して行われている。具体的には、短いリズムをつくり、それを反復したりつないだりして簡単な音楽にする活動(低学年)、言葉をリズムにのせて反復したり組み合わせたりする活動(中学年)、いくつかのリズムパターンを重ねたり組み合わせたりする活動や構成を工夫し、まとまりのある音楽をつくる活動(高学年)などが挙げられる。小学校では音楽の構成原理を使ってつくることが中心であるが、中学校では、構成原理を理解してつくっていく。複雑な音の重なりを聴き取り、音楽の構造を理解しながら、より高次の音楽表現が可能となる。こうした創作における学びの連続が、中学校での歌唱や鑑賞において、楽曲の理解や根拠をもった表現の工夫につながるものとする。

② 交流活動について

表現工夫を考える場面においては、「サラダを盛りつける」「サラダを食べる」という共通のイメージをもとに、言語活動を支えとした交流活動を主軸にして進める。グループ内での交流活動では、互いの考えを出し合い、発想を広げ、一つにまとめることが中心となる。また、グループ同士の交流活動では、観点に沿って相互評価し、自分たちのグループの工夫に反映させていくことが中心となる。交流のねらいを明確し、生徒の学習意欲や学習成果の高まりにつなげたい。その際、いろいろな重ね方を、音を出して試しながら考えをまとめていくよう助言する。また、視点を明らかにした相互評価を行い、互いの作品のよさを共有し、改善を加えながら学習を発展させていく。

6 題材の指導計画（3時間扱い）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
第一 次		ねらい 言葉のもつリズムの特徴、反復、変化、対照などの構成に関心をもち、リズムアンサンブルをつくる学習に主体的に取り組む。	
	第 1 時	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉のもつリズムを知覚・感受する。 ・ヴォイスリズム「野菜の気持ち」を鑑賞し、言葉とリズムが組み合わさったアンサンブルの音楽表現の面白さを感じ取る。 ○言葉のリズムの特徴を理解しながら、リズムアンサンブルをつくる学習の見通しをもつ。 ○言葉のリズムの特徴や反復、変化などの構成を生かした2小節（4分の4拍子）の「リズムのもと」をつくる。 ・「リズムのもと」の例を全員で演奏し、「リズムのもと」の作り方を理解する。 ・1人1つずつ好きな材料を選んで「リズムのもと」を3つ作り、ワークシートに記入する。 ・リズムの例を全員で演奏し、「リズムのもと」を繰り返したりつなぎ合わせたりして、2小節のリズムをつくることを理解する。 ・自分がつくった「リズムのもと」を繰り返したり、つなぎ合わせたりして2小節のリズムをつくり、ワークシートに記入する。 ○作品を発表し、聴き合う。 	言葉のもつリズムの特徴、反復、変化などの構成や全体のまとまりに関心をもち、それらを生かして音楽表現を工夫しながらリズムアンサンブルをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。（関心・意欲・態度①）
第二 次		ねらい 言葉のもつリズムの特徴を感じ取りながら、イメージとかかわらせて構成や全体のまとまり、強弱や速度などを工夫し、リズムアンサンブルをつくる。	
	2 時 （本 時）	<ul style="list-style-type: none"> ○サラダの盛りつけ方や食べ方をイメージしながら、反復、変化などの構成や全体のまとまりを工夫して、リズムアンサンブルをつくる。 ・重ね方の例と少しずつ食べる方法の例を全体で演奏し、「サラダを盛りつける音楽」と「サラダを食べる音楽」のイメージをもつ。 ・どのような順番で重ねていくか、どのように材料を減らしていくかをグループで話し合い、「サラダを盛りつける音楽」と「サラダを食べる音楽」をつくる。 ○つくったアンサンブルを発表し合い、よさを共有する。 ○学習の振り返りをする。 	言葉のもつリズムを知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽で表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化などの構成や全体のまとまりを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもってしている。 （音楽表現の創意工夫①）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動 ☆〔共通事項〕	評価規準
第二次	3時	<p>○言葉のもつリズムの特徴を理解し、反復、変化などの構成や全体のまとまりを生かしたリズムアンサンブルをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現したいイメージに合うような速度、強弱を考える。 ・「サラダを盛りつける音楽」と「サラダを食べる音楽」の前後に掛け声を入れて、速度や強弱を変化させた演奏を全体で試し、完成形のイメージをもつ。 ・グループでつくった作品に掛け声を入れ、速度や強弱を工夫して「サラダを盛りつける音楽」と「サラダを食べる音楽」を続けて演奏し、発表し聴き合う。 	<p>言葉のもつリズムの特徴、反復、変化などの構成や全体のまとまりに関心をもち、それらを生かして音楽表現を工夫しながらリズムアンサンブルをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>(関心・意欲・態度①)</p> <p>言葉のもつリズム、反復、変化などの構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要なリズムの組み合わせ方を身に付けて、音楽をつくっている。</p> <p>(音楽表現の技能①)</p>

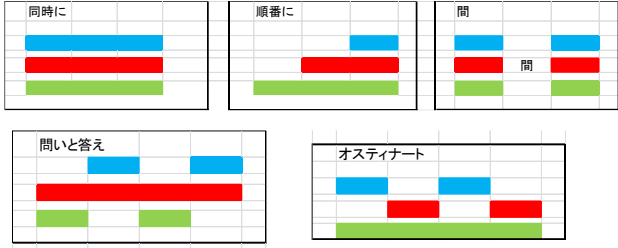
7 本時の学習 (2/3)

(1) 目標

サラダの盛りつけ方や食べ方をイメージしながら、反復、変化などの構成や全体のまとまりを工夫して、リズムアンサンブルをつくる。

(2) 展開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準<評価方法>
<p>1 常時活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「手拍子の花束」を演奏する。 <p>2 本時の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を理解する。 	<p>○リズムアンサンブルを演奏し、互いに音を聴き合うことへの意識をもつ。</p> <p>○個々の「リズムのもと」を重ね、サラダの盛りつけ方や食べ方をイメージしながら、構成や全体のまとまりを工夫したリズムアンサンブルをつくることを伝える。</p>
<p>サラダの盛りつけ方や食べ方をイメージしながら、構成や全体のまとまりを工夫して、「サラダの音楽」(リズムアンサンブル)をつくらう</p>	
<p>3 サラダの盛りつけ方や食べ方をイメージしながら、リズムアンサンブルをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重ね方の例を全体で演奏するとともに範唱CDを聴き、「サラダを盛りつける音楽」のイメージをもつ。 ・どのような順番で重ねていくか、をグループで話し合い、「サラダを盛りつける音楽」をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○重ね方の順番を図式化したものを掲示し、音楽の構造を的確にとらえられるようにする。 ○声を出してリズムの重ね方を様々に試しながら考えるよう助言する。

学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準<評価方法>
<p>・少しずつ食べる方法の例を全体で演奏するとともに範唱CDを聴き、「サラダを食べる音楽」のイメージをもつ。</p> <p>・どのように材料を減らしていくかをグループで話し合い、「サラダを食べる音楽」をつくる。</p> <p>4 中間発表する。</p> <p>・互いの作品を聴き合い、共通点や異なる点等について話し合う。</p> <p>5 自分たちの作品について振り返りをする。</p> <p>・イメージあった工夫をしているかについて再度話し合う。</p> <p>6 学習の振り返りをする。</p> <p>・リズムアンサンブルをつくるときに気を付けたことや工夫したところを記入する。</p> <p>[リズム、テクスチャ、構成]</p>	<p>○教師のかかわり ◆評価規準<評価方法></p> <p>○工夫するポイントを図式化したものを掲示し、音楽の構造を的確にとらえられるようにする。</p> <p><いろいろな重ね方の工夫></p> <p>①同時に ②順番に ③間 ④問いと答え ⑤オスティナート</p>  <p>○机間指導をし、イメージとかかわらせて反復や変化などの構成について考えられているか確認させる。</p> <p>○イメージから重ね方を考えることが難しいグループは、掲示した「いろいろな重ね方の工夫」の中から自分たちのイメージに近いものを選ぶように助言する。</p> <p>○2～3グループの生徒の作品を発表する。</p> <p>○リズムの重ね方や構成について、イメージを根拠に説明するよう助言する。</p> <p>○自分たちの作品について、課題や改善の見通しを持てるよう助言する。</p> <p>○視点を絞って友達の作品を聴き、意見を交換し合うよう助言する。</p> <p><発表を聴く視点></p> <p>①どのような構成の工夫をしているか ②自分たちにはない工夫は何か</p> <p>◆ 言葉のもつリズムを知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽で表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <p>(音楽表現の創意工夫①) (観察・発表・ワークシート)</p>

